

Vフロン#200スマイルRB プライマー

1.一般名 弱溶剤二液反応硬化型エポキシ樹脂シーラー

2.規格表示等

2-1.規格表示 弱溶剤系反応形成樹脂シーラー

2-2.ホルムアルデヒド放散等級分類記号 F☆☆☆☆

3.特長

- 1)アルマイトへの付着性に優れ、また鉄部を除く各種素材(非鉄金属、無機系、木材、FRP等)との付着性にも優れる。
- 2)二液反応硬化のため下地の補強、吸い込み防止に優れる。
- 3)各種旧塗膜にも幅広く適用できる。
- 4)「白」は吸い込みのない金属素地面への塗装性に、「クリヤー」は脆弱な無機素地面への含浸補強性に優れる。

4.塗料性状^{※1}

項目	内容			
容姿	2液性			
荷姿	白	・15kgセット(主剤13.5kg・硬化剤1.5kg) ・3kgセット((主剤2.7kg・硬化剤0.3kg)		
	クリヤー	・15kgセット(主剤14kg・硬化剤1kg) ・3kgセット(主剤2.8kg・硬化剤0.2kg)		
色相	白、クリヤー			
光沢	—			
密度(23°C)	塗料	1.29±0.05(白)、0.95±0.05(クリヤー)		
	揮発分	0.85		
粘度(23°C)	75~100KU(白)			
	10~20秒(フォードカップ#4)(クリヤー)			
加熱残分	60~70%(白)、35~40%(クリヤー)			
乾燥時間	温度	5°C	20°C	30°C
	指触	3時間	1時間	30分
	半硬化	24時間	8時間	6時間
標準膜厚	30μm/回(白)			
引火点	SDS参照			
発火点	SDS参照			
爆発限界(下限~上限)	SDS参照			

※1上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動があります。

※2エアスプレーの場合は、エアレス希釈率より5~10%増やしてください。

6.施工上の注意

- 1)十分攪拌し均一な塗料状態にしてから塗装する。
- 2)希釈は必ず指定された希釈剤を使用する。
- 3)被塗面の油、湿気、じんあい、水分、その他の有害な付着物は完全に除去する。
- 4)塗装間隔が長くなると密着不良になる。規定以上経過した場合は塗膜表面をサンドペーパー等にて研磨し、更にウエス拭きしてから塗装すること。
- 5)吸い込み止めとして塗る場合、希釈率は30~50%とする。
- 6)旧塗膜が塗料用シンナーで溶解する弱溶剤系の塗料の場合は塗装を避ける。
- 7)吸い込みのない金属素地面への塗装は「白」を推奨する。
- 8)脆弱な無機素地面への含浸補強には「クリヤー」を推奨する。

使用上の注意の詳細は容器ラベルに表示

5.塗装基準

項目	内容			
下地処理	素材表面の油分、汚れ、埃等を除去し乾燥した清浄な面とする。 pH10以下、含水率10%以下			
調合法	主剤90部:硬化剤10部(重量比・白) 主剤14部:硬化剤1部(重量比・クリヤー)			
熟成時間	—			
可使時間	8時間/20°C			
塗装方法	刷毛、ローラー、スプレー			
希釈剤	塗料用シンナー又は塗料用シンナーA			
塗装法	塗装方法	刷毛、ローラー	エアレス ^{※2}	
	希釈率	5~10%(白)	10~20%(白)	
		30~50%(クリヤー)	30~50%(クリヤー)	
	標準使用量	0.10kg/m ² /回	0.12kg/m ² /回	
	標準膜厚	30μm/回(白)		
ウエット管理膜厚	75μm/回(白)			
塗装間隔	温度	5°C	20°C	30°C
	最小(屋根) ^{※4}	48時間	16時間	12時間
	最小(壁面) ^{※4}	12時間	4時間	3時間
	最大	14日	7日	7日

※4上塗り弱溶剤系とした場合の屋根面での歩行可能な最小時間、壁面での塗り重ね最小時間。

注)標準使用量は実測値に基づき算出しています。
また被塗物の形状などにより標準使用量は変動いたします。

7.関連法規則

危険物表示	主剤(白):指定可燃物 主剤(クリヤー)・硬化剤:第2石油類
有機溶剤区分	主剤・硬化剤:第3種有機溶剤含有物
有害物質表示	SDS参照
劇物表示	—
エポキシ樹脂 硬化剤表示	主剤:エポキシ樹脂 硬化剤:ポリアミドアミン

8.使用上の注意[警告]

- 1.引火性の液体である。
- 2.有機溶剤中毒の恐れがある。
- 3.健康に有害な物質を含有している。